

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (久居高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		学校生活の充実と確かな進路保障を通じて、生徒・保護者・地域から信頼され、魅力ある学校づくりを推進する。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣・規範意識を身につけ、何事にも意欲的、誠実に取り組む創造性豊かな生徒。 ○日々の授業を大切に、家庭学習等を通じて、学力の定着と向上に取り組む生徒。 ○積極的に部活動に参加し、技術の向上と役割を担うことにより、責任感と協調性のある生徒。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○率先して教育活動に取り組む意欲と活力のある教職員集団。 ○さらに充実した授業・「わかる授業」を実践するために、公開授業や教科内・校内での改善活動を積極的に推進する教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】 充実した授業を受けたい。活発なクラブ活動をしたい。進路希望を実現したい。</p> <p>【保護者】 安全・安心の学校生活。卒業後の進路保障。モラルの向上。社会人として自立できる力を育ててほしい。</p> <p>【地域】 公共心とマナーの育成。地域の普通科高校として信頼できる教育を推進してもらいたい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>【保護者】 毅然とした生活指導を行いながらも、子どもの心に配慮した教育を行なって欲しい。</p> <p>【中学校】 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報などを知らせて欲しい。</p> <p>【地域】 交通マナー、公共の場でのマナーを守らせて欲しい。</p>	<p>【保護者】 本校教育方針への理解と協力。家庭でのしつけと指導の強化。</p> <p>【中学校】 連携を密にとりながら信頼関係を構築していきたい。</p> <p>【地域】 本校の教育活動を理解し、協力してもらいたい。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ○遅刻が多いが、学校と保護者とコミュニケーションを取って対応してもらいたい。 ○家庭学習の習慣がついていないように思えるが、宿題等を出して、学習習慣をつけることにより、進路保障をしてほしい。進学しても学習習慣がついていないと大学の授業についていけないことがある。 ○いじめられていると思う生徒がいることを学校全体として捉え、個別面談等を通じてきめ細かいかわりをしてもらいたい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○明確な目標や目的意識を持って日々の学校生活をおくる姿勢、主体的に自己の進路を選択し、決定できる能力や確かな勤労観・職業観を身につけ、たくましく自立していける生徒を育てる。そのために進路別モデルコースの内容を充実させるとともに、三年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を展開する。 ○基本的な生活習慣の確立のため、遅刻の防止、交通安全指導、服装指導、清掃指導に継続して取り組むとともに、「あいさつの久居、清掃の久居」と言われるような学校づくりを推進しながら、社会生活を営む上で必要な基本的な生活習慣・規範意識を定着させ、自主自律の気風あふれる生徒集団を育成する。 ○生徒の学力の定着・伸長、言語能力の向上、学習習慣の確立等に留意し、さらに生徒のニーズに的確に対応できる単位制・コース制の充実を通じて、地域から信頼される久居高校をめざす。そうした魅力ある学校づくりを通して、安定した志願者数の確保に繋げていく。 	

学校 運営等	<p>○情報管理、自然災害、事故、いじめ等に教職員が常に危機管理、人権教育の視点を持って教育活動を展開し、様々な事象に対応できるように保護者、地域及び関係機関と連携しながら、さらなる安全・安心な学校づくりをめざしていく。また、教職員が心身の健康を維持し意欲を持って教育活動を継続する観点から、時間外労働時間を削減し、総勤務時間の縮減を図る。</p> <p>○部活動において、「部活動ガイドライン」に沿って、すべての部員が目標実現のため活発に活動できる環境づくりを目指す。技術的指導ができる教職員の確保に努め、久居高校の特色としてさらなる活性化を図る。</p>
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1. コースの魅力化</p> <p>○スポーツ科学コース、部活動を振興し、その成果を継承・発展させる。</p> <p>○チャレンジコースを含めた普通科全体の教育活動をいっそう充実させる。</p> <p>2. 進路保障に向けた取組</p> <p>○家庭学習習慣の定着を通じて学力を向上させる。</p> <p>○生徒の進路希望実現に向けて進路指導の内容・体制を充実させ、進路実績の向上を目指す。</p> <p>○規範意識・基本的生活習慣の定着・向上に重点を置いた生徒指導を進める。</p>
学校運営等	<p>1. 教職員の資質向上</p> <p>○新学習指導要領、高大接続改革への対応</p> <p>○授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力をはじめとする力量向上に取り組む。</p> <p>2. 地域への発信</p> <p>○広報活動の体制と内容を改善・充実させる。</p> <p>3. 教職員の働きやすい環境づくり</p> <p>○総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。</p> <p>○部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

1. コースの魅力化	<p>○スポーツ科学コース、部活動を振興し、その成果を継承・発展させる。</p> <p>●スポーツ科学コースの活性化をすすめる。 【プロジェクト委】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学選抜のあり方を検討する。 ・広報委員会を中心に中学校訪問をくり返し、目的意識のある生徒の確保につとめる。 <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前期選抜入試要項を改訂 ○広報委員、主幹教諭、教頭で計3回の中学校訪問を実施。 <p>【成果指標】</p> <p>前期選抜で、目的意識のある生徒を一定数確保できたかどうか。</p>	◎	◎ ※
2. 進路保障に向けた取組	<p>○家庭学習習慣の定着を通じて学力を向上させる。</p> <p>●家庭学習時間1時間の定着を図る。 【1学年】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年で宿題を出す(英・数・国・一般常識)。 ・宿題テストを行う。 ・各学期考査ごとに学習記録を取り、振り返りを行う。 <p>【活動内容】</p>	◎	◎ ※

	<p>○英数国等各教科での取組は行われているが、学年での宿題を課すことは出来なかった。</p> <p>○宿題テストも未実施。</p> <p>○考查ごとの学習記録の記入は毎回行ないその都度学習状況を確認</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期末で生徒アンケートを実施し、家庭学習1時間以上出来た生徒を60%以上とする。 <p>○生徒の進路希望実現に向けて進路指導の内容・体制を充実させ、進路実績の向上を目指す。</p> <p>●多様な進路を希望する生徒に対応するため、放課後の各セミナー（指定校、看護、就職、公務員）をより充実させ、きめ細かな生徒への対応を行う。 【進路】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立セミナーを新たに実施する。 <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少数ながら毎年数名は希望する国公立の推薦入試に対応できる能力と意識を向上させる指導を展開。結果、4名の合格者 ○生徒が希望する多様な進路の実現をサポートするため、放課後のセミナーをさらに充実したものにする事ができた。 ○指定校、看護セミナーでは、連携し、面接対策を中心に指導。 ○公務員セミナーでは毎日のきめ細かな指導を行った。 ・面接ノート（進学・就職）活用方法の見直しを行い、総合的な探究の時間との連携を企図する。 <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度はセミナーを中心に実施したため、総合との連携は行わなかった。 ・保育、公務員、看護の授業と連携を取る。 <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部の公務員、看護担当がそれぞれ授業を担当しているため、進路指導と授業の指導を連携させることができた。保育に関しては、授業担当者が進路指導部にいないため連携はできなかったが、次年度、進路指導部で担当し、連携を強化する方向。 ・各セミナーで合格後の指導を充実させる。 <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就職セミナーでは合格後も社会人としての意識を向上させる取組みを実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に3年生全員へのアンケートを実施すると共に、各セミナーのアンケートを実施し、満足度80%以上を目指す。 <p>●基礎学力を身につけ、就職・進学の試験に合格できるようにする。 【3学年】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部・プロジェクト委員会と連携し、朝トレウイーク等学習の時間を取る。 <p>【活動内容】</p>	<p>○約40% 【未達成】</p> <p>○希望を実現できたと回答した生徒は、全体の86% 【達成】</p> <p>○各セミナーの満足度は、指定校、国公立で100%、看護91%、公務員79%、就職88% 【達成】</p>	
--	---	--	--

	<p>○朝トレウイークで、ワークに取り組んだ後、テストを受験。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年チャレンジコース生徒の担当者間で模試結果の情報共有をし、生徒一人ひとりに適切な指導を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テスト結果でD3生徒数が学年生徒数の10%以内にする。 ・3年チャレンジコース担当者会議を学期に1回以上開催する。 <p>・アンケートを実施。「当初の進路希望を実現することができた」と回答した生徒の割合を80%以上とする。</p> <p>○規範意識・基本的な生活習慣の定着・向上に重点を置いた生徒指導を進める。</p> <p>●問題行動(遅刻、交通マナー、訓戒、謹慎、懲戒等)を抑止し、生徒指導件数を少なくする活動をすすめる。 【生指】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭での立番、日頃の声かけ等を行い、生徒との信頼関係を作っていく。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の生徒指導件数比10%減。 <p>●健康観察の実施を徹底し、感染症の集団発生及び、長期欠席者の早期把握に努め、指導の充実を図る。 【保健】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患のある生徒の生活管理を徹底する。 ・生徒の保健室利用を好機ととらえ、問診等を通して、生徒自ら生活習慣を改善できる力を養う。 ・生徒の健康状態について、担任、学年、関係職員との連携を密にして、適切な情報共有と指導を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者の減少昨年度比20%減。 ・インフルエンザ患者の減少昨年度比20%減。 <p>●生徒が、授業の準備を済ませ、着席して始業のチャイムを聞く雰囲気醸成する。 【2学年】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担任・教科担当から機会あるごとに「ベル席」の大切さを伝える。 <p>【活動内容】</p> <p>○1学期の初め、2学期の初めに担任を中心に繰り返し「ベル席」の大切さについて話をした。教科担当からも注意を重ねていったことで、「授業準備をして自席でチャイムを聞く」ことが当たり前になっている生徒が多くなっている。授業に臨む教員の始動は早く、多くの時間で開始前に教室に行き、生徒の様子を見守り、声かけすることができている。</p>	<p>○7月模試、D3生徒33人 【未達成】</p> <p>○【達成】</p> <p>○【達成】</p> <p>○【未達成】</p> <p>○大半の生徒が朝の挨拶や入室時の挨拶ができている。</p> <p>【達成】</p> <p>○90日以上長期欠席者(前年度比37%減)</p> <p>○出席停止疾患数(前年度比66%減)</p>	<p>◎</p>
--	---	--	----------

	<p>・授業担当者も授業開始のベルの前に教室前へ行き、見守り、できない生徒は、個別に指導をしていく。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・学期末ごとに生徒アンケートを実施し、「完璧にできた」「ほぼできた」と回答する生徒の割合を60%以上とする。</p> <p>●読書に対する関心を高め、学力の定着・向上に貢献する取組をおこなう。 【図書】</p> <p>【活動指標】</p> <p>・図書館ニュースや図書委員の活動を通して啓発・向上に努める。</p> <p>【活動内容】</p> <p>○図書委員会の活動を通じて、読書を愛好する生徒たちが誇らしい気持ちを持てる機会を提供。</p> <p>○自習場所として図書室を利用できるように、試験期間中や長期休業中には意識的に開館。</p> <p>○学習や進路対策に関する新刊の購入。</p> <p>○除籍作業に重点的に取り組んだ。</p> <p>○たよりを年間計画のとおり発行できた。</p> <p>○図書委員会により、おすすめ本を展示する文化祭企画を実施。</p> <p>○秋の読書週間にあわせて、図書委員便りを3回発行。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・年度末の学校改善調査において、図書室を利用すると答える生徒の割合を30%以上とする。</p> <p>●命の尊さを学び、いじめを防止する取り組みを進める。 【人権教育】</p> <p>【活動指標】</p> <p>・生徒対象の講演会・LHR、教職員対象の現職教育（研修会）を実施する。</p> <p>【活動内容】</p> <p>○8月29日（木）現職教育「久居高校の現状について」</p> <p>○11月6日（水）「差別のない社会をみんなで作ろう」</p> <p>○11月13日（水）LHR 全学年（障がい者の人権について）</p> <p>○12月19日（木）人権週間行事（DVD視聴「性的マイノリティの結婚」、「言葉で人を傷つけないために」講話（人権教育係）</p> <p>【成果指標】</p> <p>・それぞれアンケートを実施し、命の尊さやいじめ防止について、意識が高まったと回答した生徒及び教職員の割合を80%以上とする。</p> <p>1. 人権学習について</p> <p>「人権学習は大切だ」78%、</p> <p>「解決するための答えが決まっていないから難しい」50%</p> <p>2. 人権問題についてのどのような考えを持っているか。</p> <p>「差別をなくすためには、みんなが学習する必要がある」67%、</p> <p>「差別をなくすためには、なくしていこうという仲間をつくる必要がある」37%、</p> <p>「差別は、差別をする人がいる限りなくならないと思う」60%</p>	<p>【達成】</p> <p>○1 学期末 83%</p> <p>2 学期末 84%</p> <p>○25% 【未達成】</p> <p>○【未達成】</p>	<p>※</p>
--	--	---	----------

改善課題

- ・家庭学習の習慣の意識付をはかるとともに、基礎学力の向上については授業の充実をはかる必要がある。
- ・次年度は、AO入試や指定校推薦の時期や方式なども大きく動いてくるため、新入試に即した進路指導のあり方、指導の時期などを検討していくことが非常に大きな課題になる。また同時に進路イベントの合理化も図っていくことが必要だと考える。(チャレンジ委員会)
- ・相談目的で頻繁に来室する生徒に対しての指導等が課題である。個々の改善計画を具体的に考えるとともに、関係箇所と緊密に情報共有しながら改善に向けた支援を行っていききたい。(保健部)
- ・引き続き重点的に除籍作業に取り組み、書架の新鮮度を高める。(図書)
- ・利用促進につながるよう、図書館のPRにつとめる。(図書)
- ・周知が不十分だったために課題が残る結果となった。学年の取組が学校全体の連携した取組のとなっていないこと、有効な取組継続的に実施するシステムが十分でないことに課題がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

	取組内容・指標	結果	備考
1. 教職員の 資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領、高大接続改革への対応 ○授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力をはじめとする力量向上に取り組む。 ●各教科内で、授業参観をすることにより、生徒の情報共有や新学習指導要領に対応する授業改善を行う。 【教務】 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会にて、授業見学を計画し、提案する。 ・授業見学の視点を提示し、事後検討を行いやすくする。 ・検討内容を集約し、分類や焦点化したものをカリキュラム委員会で提示する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員の各学期における授業見学数が1回以上。 ・生徒満足度調査で、授業関連の満足度80%以上。 	<p>【未達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見学者 年間80回(回答者15名) ○授業の進め方75% わかりやすさ63% 	
2. 地域への 発信	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の体制と内容を改善・充実させる。 【広報委員会】 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール・定期的な中学校訪問等を通じて、本校の教育活動への理解を促し、不本意入学を減らすことを目指す。 <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度初め新入生の情報共有を中心に教頭・主幹が中学校を訪問。 全職員での訪問は2回実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期選抜・後期選抜を通じて、受検生を一定数確保できたかどうか。 	<p>【未達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前期は確保、 後期は厳しい 	

<p>3. 教職員の働きやすい環境づくり</p>	<p>○総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。 ●業務を精選する。【総務】 【活動指標】 ・これまで「例年通り」としてきた業務を精選する。 ・必要性の低い会議や委員会、組織、作成物を洗い出す。 ・関係分掌への聞き取りを行い、業務の見直しや取りやめを提案する。 【活動内容】 ○委員会構成について検討、見直しを行った。 ○オープンスクールなどでの靴袋の配布を止めた。 【成果指標】 ・10項目以上の見直しや取りやめを実現する。</p> <p>● 総勤務時間を縮減する取り組みを行う。【教頭】 【活動指標】 ・原則月1回の定時退校日を設定する。 ・会議資料の精選やデスクネットを活用し、会議時間の短縮をすすめる。 ・休暇取得が増加する。 【成果指標】 ・月1回の定時退校日（原則月末の月曜日）に定時に退校できる職員の割合 <u>80%</u>を目指す。 ・放課後に開催された60分以内に終了する会議の割合 <u>80%</u>を目指す。 ・休暇取得をH30年度比で1日増加を目指す。</p> <p>・月80(45)時間を超える時間外労働者の年間延べ人数をH30年度比で2人削減する。</p> <p>○部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応。 ●部活動休養日を設定する。【教頭】 【活動指標】 ・部活動休養日を原則週1回設定する。 【成果指標】 ・部活動休養日を原則週1回設定できた部活動の割合100%を目指す。</p> <p>○不祥事を根絶するため、職員を啓発する。【管理職】 【活動指標】 ・職員会議等機会ある毎に、不祥事根絶のため情報提供を行う。 ・コンプライアンスミーティングを実施する。 【活動内容】 ○注意喚起、コンプライアンスミーティングを1回実施 【成果指標】 ・研修会を実施し、意識が高まった教職員の割合100%を目指す。</p>	<p>○20%【未達成】</p> <p>○69%【未達成】</p> <p>○96%【達成】 ○休暇取得は、12月時点で平均19日の取得（前年度21.8日）</p> <p>○12月時点でのべ16名（H30年度20名）</p> <p>○92.7%【未達成】</p> <p>○86%【未達成】</p>	
--------------------------	---	--	--

改善課題

- ・授業改善についても新学習指導要領についても、カリキュラム委員会での周知だけでは、全体への浸透が薄いと感じる。授業見学だけでなく、研究授業や協議、指導要領の変更点については現職教育等を行うことで、周知だけでなく、本校の目指す教育について共通の認識を持つことが課題である。(教務)
- ・具体的な活動・成果指標を客観的に計り、改善点を次年度に呈示するシステムとなっていない点に課題がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

- ・いじめの問題など、生徒1人ひとりによりていねいな対応が必要となっており、次年度は、面談機会の充実など、より進めていただきたい。
- ・服装頭髪の指導については、指導基準を共有し、教員によって指導に差がないよう、指導を徹底してもらいたい。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

- ・生徒の学力向上のため、教科間での協力体制をつくっていく。
- ・多様な生徒への対応が求められる中、面談の機会を増やすなど、丁寧な指導体制を確立するとともに、教育相談体制の充実を図る。
- ・各分掌、学年の取組が全体最適になるように連携を深める。
- ・外部の協力も求めながら、生徒の進路選択の助けとなる研修、セミナー等を一層充実させる

学校運営についての改善策

- ・授業改善に係る現職教育を充実することにより、教員一人ひとりの授業力の向上を図り、生徒の基礎学力向上を図る。
- ・教職員の勤務時間の縮減に向けて、業務のスリム化を一層進めるとともに、休業日の増設など、より目に見える形での方策を検討していく。